

地域連携プロジェクト、自然観察会についての報告

静岡大学技術部教育研究支援部門

宮澤俊義， 剣持太一， ○木野瑞萌， 山本千尋

kino.mizuho@shizuoka.ac.jp

大学の財産を地域に還元し、地域に貢献するためのプロジェクト、静岡大学地域連携応援プロジェクトに応募して採択され、昨年度の1月と3月に静岡キャンパス内での自然観察会を初めて企画しました。静岡キャンパスは、久能山東照宮がある日本平の山稜に位置し、照葉樹林と落葉広葉樹に囲まれた、キャンパスの自然はとても豊かです。「静岡大学は一つの大きな自然公園」というコンセプトのもと、その環境を地域の人にも体感し、共有してもらいたいという思いからこのプロジェクトを企画・実施しました。

この自然観察会は、植物、昆虫、野鳥の3種類の観察を同時に行うという、複合観察会にしています。技術職員の中で、それぞれの分野で詳しい人を講師としました。植物分野は宮澤技術長、昆虫分野は剣持技術職員、野鳥分野は私が講師を務め、山本技術職員には、安全確認や記録等を行っていただきました。植物・昆虫・野鳥を一緒に観察する、自然観察会は有りそうで無い興味深い企画です。今回は私が行った、野鳥観察の様子についての報告をします。

一つの目標として、地域の人に、鳥を見る楽しさを実感してもらい、それをきっかけに自然の大切さや生物多様性、環境について考えてもらえるようにしたいと思いました。大学にはたくさんと敷地と自然がありますが、静岡大学に来てまだ日も浅く、また必ずしも適切な野鳥観察スポットではないと思われたため、当日確実に観察できるように事前に何度も入念に下見をしました。静岡キャンパス内でのどのような野鳥がいるのか、いつ見られやすいのか等を調べる必要があったからです。時間があるときにキャンパス内を歩き、どこでどんな野鳥が見られるのかを確認し、観察する時間も、朝、昼、夕方に行い、時間ごとの差違いを調べ、観察経路を決めました。その結果、一番観察しやすいのは朝であることがわかりました。植物や昆虫の講師とも相談し、開催時間を参加者が遠方からでも来られるような時間帯の朝方10時としました。

より楽しんで、理解を深めてもらえるように、野鳥の姿や特徴のわかる、資料を表にまとめ、拡大コピーも何種類か作り、配布資料も作りました。クイズ入りの解説や、雨の日の対策等を考え、鳥についてパワーポイントも用意しました。参加される方用の双眼鏡、ハンディ野鳥図鑑等の観察道具等も用意しました。

野鳥相手なので、その日のコンディションや別の場所で餌を探していることで姿を現さないなど、十分楽しんでもらえるか終わるまで不安でした。

開催当日は、どちらの日程もだいたい10人程度の人に集まっていただけました。はじめに少し説明をした後、キャンパス内の散策を行いました。天候にも恵まれて少人数でしたが家族的な心のこもった観察会が実施できたと思います。実施者が楽しんでいないと参加者も楽しんでくれません。

2回合わせて、ほぼ想定した通りの〇〇種が見ることができ、静岡大学キャンパスにも多くの野鳥がいることを体感してもらえました。実施者の解説と野鳥の可愛らしさに観察会は、とても盛り上がりました。中には、普段あまり見られないような、猛禽類であるノスリも見ることができました。私が見つけて解説した以外にも、参加者自身が野鳥を見つけて私に質問する事も次第に増えました。そうなるの間違ひなく観察会は成功です。同時に行っていた、植物や昆虫についても、それぞれ参加者からの質問が多く出たりして、野鳥や自然に興味をもってもらえ、静岡大学のキャンパスの自然を楽しんでももらえました。また多くの方々から、次回も参加したいとも言っていただけ、自然観察会を開催した目的を達成できたと思います。生涯教育のきっかけ作りの役割も果たせました。

今年も、同じような自然観察会を継続して行う予定です。



観察会の様子



観察会の様子



見られた鳥の一部 イソヒヨドリ (オス)



ハクセキレイ